1994 年 2 月 28 日 第三種郵便物認可 2023 年 7 月 15 日発行 ＴＳＫ通巻第 2887 号 きゅうどうしゃ第 70 号

TSK きゅうどうしゃ

No.70

２０２３年７月

編　集：社会福祉法人求道舎
〒039-2516　青森県上北郡七戸町字舘野 32-15　TEL：0176-62-3631　FAX：0176-62-3694
E-mail：kyudosya@ruby.ocn.ne.jp　ホームページ：http://www.kyudosya.jp

人と人とをつなげてくださる方

三本木教会牧師　太田　望

太田望牧師

先日、ペンテコステを教会で、また付属施設の認定こども園ひかり保育園で、それぞれに特別な礼拝を守りました。これが刊行される時期は7月以降と聞いていますので、時期外れかと思うでしょう。今、これを書き始めたのがちょうどペンテコステの週ですので、そのことを理解ください。

さて、選んだ聖書個所は使徒言行録2章3節。この3節には、ペンテコステの日に起こった聖霊が降臨した時のことが書かれています。聖霊が使徒たちの上に注がれ、舌が火のように分かれ分かれにやってきました。しかも聖霊は、誰かが代表して受けるのではなく、その場にいた全員の上にとどまり、その力を受けました。そうして、聖霊を受けた弟子たちは他の国々の言葉を話し始めたのでした。

この出来事は、ペンテコステにおいてとても大きな意味を持っています。聖霊の降臨というのは神様の力の表れ方であり、これによって弟子たちは特別な力を与えられました。弟子たちは普段使う言葉とは違う言葉を理解し、話す力を与えられたのです。ここに示されている奇跡は、普段は別々の言語を話す人々が、聖霊の力によって、言葉の壁を越えて交わりが持てるということ、また福音のメッセージを誰もが受け取れるようになったということです。これはキリスト教を、イエス様の愛を、伝え広めるために重要なことです。異なる国、文化を持つ人々が神様の愛を分かち合えることを示しているからです。

そして、このペンテコステの出来事が示しているのはそれだけで終わりではなく、きっと言葉を越えた人と人とのつながりをも示してくれているのではないでしょうか。言葉と言うのは、単純に口から発する音としての言葉だけでなく、手話やボディランゲージなどもあります。それだけでなく、行動から伝わるものもあれば、目で示す意思で伝わるものもあります。それら伝わってくるものもまた、言葉の枠に入るのではないかと思っています。これは、三本木教会の付属施設である認定こども園ひかり保育園の子どもたちと関わる中で、教えられてきたことです。ひかり保育園には0歳から6歳までの子どもがいます。近年は医療的ケア児の受け入れなども行っていますが、どの子どもたちも、必死に自分の伝えたいことを、こちらに伝えようとしてきます。そこには言葉を越えた思いがあるように思います。このことをはじめ、子どもたちから、神様が共に生きるためのたくさんの物を与えてくださっていることを教えられます。

神様はこのペンテコステの出来事のように、聖霊を通して、言葉と言葉を、心と心をつないでくださいます。そのつながりを大切に、互いに愛し合いなさいと言う、イエス様からの言葉に従って歩んでいきたいものです。

求道舎 ― 歩みは続く その(3)

理事長 小原 義夫

昨年の6月号の機関紙に、求道舎 ― 歩みは続く その（2）を載せていただきました。本号で、その（3）をお送りします。

昨２０２２年度の決算が纏まりました。幸いにも若干の黒字で終えることができ、職員の努力は勿論ですが、外部の多くの方々のお支えに感謝申し上げる次第です。今回のご報告では、法人としての人件費について述べてみたいと思います。

私が理事長に就任したのが、２０１８年の1月です。その年の３月で終わる求道舎２０１７年度の決算は、法人の将来に少なからぬ不安を抱かせる結果でした。２０１６年の末に、野辺地クローバー事業所が、新築・開業し、計画していたとは言え、多額の有利子負債を背負ってのスタートでした。クローバーは七戸おおばこと異なり、Ｂ型の他に、もう少し重度の障がい者の方々を支援する生活介護事業および相談支援事業を加えてのスタートでしたが、それらの事業がまだ軌道に乗るに至っていませんでした。表（1）「人件費の推移」で、福祉サービス収入と人件費、損益（当期資金収支差）の推移をご覧ください。２０１７年度は大きな赤字です。人件費率（人件費／福祉サービス収入）も80％を超えています。

この結果を踏まえて２０１８年度は、職員の定期昇給を圧縮、定期預金を取り崩して借入返済に充てる緊急策をとりました。その結果、２０１８年度は、辛うじて、資金収支差は黒字に転換し、人件費率も約70％まで低下しました。しかしこの結果は、職員の収入を停滞させ、蓄えを食いつぶすキリギリスの生活でした。２０１９年度を見てください。この年職員の定期昇給は満額実施しました。また、クローバーの新しい生活介護事業、相談支援事業が、ある程度軌道に乗ってきたことも寄与して、福祉サービス収入が伸びています。人件費はむしろ低下し、職員の筋肉質化が進んだと言えます。つまり、よく働く人だけを残して、その人たちの待遇を改善した結果です。２０２０年度以降は、福祉人材に対する国の施策、処遇改善手当の支給が拡充・定着して来たこと、また法人として新たな加算の取得や利用者の増加などに努力したことによって、福祉サービス収入がさらに伸びています。２０２１年度～２０２２年度はコロナ禍の困難はありましたが、人員の更なる精鋭化を図り、人件費比率を適正水準に保つことができました。

当法人においては、費用の中で大きな割合を占める人件費が、経営の舵取りを大きく左右します。経営的には、表（1）にある人件費比率を今後とも適正水準（～70％）に保ちつつ、職員の待遇を継続して改善して行って、求道舎が福祉人材に喜んで働いて貰える職場であり続ける様、努力して参ります。その為には、収入増も必要ですが、事業活動のコスト低減と、職員の生産性向上も同時に必要です。求道舎職員一同、一丸となって努力して行きたいと思います。

表（１）人件費の推移（単位　千円）

	福祉サービス収入(A)	総人件費(B)	B／A	損　益
２０１７年度	１１０，３８５	８９，０７３	８０．７％	△１８，６５５
２０１８年度	１１９，９６７	８３，７４３	６９．８％	４，２６９
２０１９年度	１２１，５８９	８１，７２２	６７．２％	５，９６２
２０２０年度	１３２，００３	８５，１４６	６４．５％	１１，９６４
２０２１年度	１３１，８８０	８７，３２３	６６．２％	１０，９５４
２０２２年度	１２８，３０５	８６，６１７	６７．５％	１４，２８５
２０２３年度（予算）	１３１，８９２	９０，８７９	６８．９％	１１，９７２

おおばこ作業所

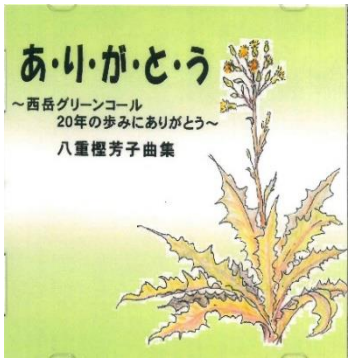
おおばこの歌

「そのままのすがたで」？

さて、知っている人がどれだけいるだろうか？「そう言えば、何かあったね。」くらいの記憶の人は、何人かはいるかも知れない。ただし、「アナと雪の女王」ではありません。１９９３年7月に生まれた曲で、おおばこの元利用者(故人)、日下部宏さん作詞、元奥中山教会員(故人)、八重樫芳子さん作曲による、おおばこのための歌です。この度、作曲者の長女でいらっしゃる奥中山教会員、長内薫さまのご厚意で、楽譜とＣＤが手に入りました。

ある古くからの利用者に、「この歌、覚えてる？」と聞いたら、一番を完璧にそらで歌いました。長いこと歌ってなかったのに。歌の力はすごい。せっかくのおおばこの歌、改めて思い出して、大切にして行きましょう。長内薫さま、奥中山教会の長尾邦弘牧師さま、ありがとうございました。

（理事長　小原　義夫）



「そのままのすがたで」が収録されている「八重樫芳子曲集」のＣＤ

お楽しみは、何かな？

４月から５月にかけて、カラオケ・ボウリング・買い物・温泉・コンサートなど、希望をつのって小グループでレクリエーションを実施しました。

利用者紹介

◆おおばこ作業所

○松宮　悠翔さん（右）

○四戸　隆星さん（左）

二人とも学校を卒業したてのニューフェイスです。

クローバー作業所

【秋フェス＆冬フェス】

前回の春フェス＆夏フェスに引き続き、今回は秋フェス＆冬フェスを紹介したいと思います。秋はみんなで仮装してハロウィンパーティー、冬は新しい気持ちで新年会をやっています。今年は還暦のお祝いも一緒に行いました。くじ引きやビンゴ、ジャンボかるたやサイコロチャレンジ、屋台メニューやお寿司などなど…。利用者さんも職員も毎回全力で楽しんでいます!!

【感　謝】

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンよりギフトカードをいただきました。今回は、環境整備の一環としてお花を購入しました。イオン東北株式会社様に感謝するとともに、クローバー作業所のＢＯＸにレシートを投函して下さった地域の皆様にお礼申し上げます。今年度も登録していますので、引き続きご協力お願いいたします。

◆クローバー作業所

○遠嶋　嘉徳さん

６月から生活介護を利用しています。フルーツキャップ作業とダンスが得意です。みんなと仲良く楽しく過ごしたいと思います。よろしくお願いします。

○馬場みさ江さん

クローバーでの作業を頑張って、目標に向かってステップアップしていきたいと思います。よろしくお願いします。

○黒滝　勝さん

にんにく作業を頑張っています。他の作業にも挑戦していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

（馬場さんと黒滝さんは、ご本人の希望で写真は掲載しません）

役員の再選と白戸評議員の退任

求道舎の役員（理事・監事）が6月に改選されました。理事は6名、監事は2名の体制です。評議員会で選任され、全員再任ということになりました。

また、評議員は、任期の途中でしたが、白戸清評議員が3月31日で退任されました。白戸さんは野辺地教会牧師として、平成15年に設置された評議員会の一員として20年間お勤めいただきました。また、同時に求道舎後援会長としてもご尽力をいただきました。

今回野辺地教会牧師を隠退されるということで、評議員と後援会長も退任されることとなりました。長い間ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。

評議員の後任には、新たに野辺教会に赴任された湊理恵さんが、後援会長には澤橋登さんが就任されました。

〈理　事　会〉（８名）

理事長	小原　義夫
理　事	櫻田　明
理　事	附田　賢治
理　事	野口　忠子
理　事	棟方　朋彦
理　事	米内山　正義
監　事	戸舘　秀雄
監　事	盛田　安和

〈評 議 員 会〉（７名）

評議員	小原　佳之
評議員	片石　康輔
評議員	甲田　安子
評議員	澤橋　登
評議員	髙田　武志
評議員	湊　理恵
評議員	廣瀬　善子

オンブズマンの紹介①

五十嵐律子さん

おおばこ作業所のオンブズマン五十嵐律子さんを紹介します。五十嵐さんは保健師・社会福祉士・介護支援専門員の資格をお持ちで、普段は十和田市東地域包括支援センターにお勤めです。月に1回訪問して、利用者さんとお話をしてくださいます。

新職員紹介

瀧澤ゆか子さん

6月からクローバー作業所に生活介護で勤務する事になりました瀧澤ゆか子です。未経験のため先輩職員の方々の御指導を頂きながら、少しでも早く利用者の皆さんに信頼してもらい、皆さんの力になれる支援員を目指して頑張っていきますのでよろしくお願いします。

編集後記

機関紙も70号になりました。はるばる旅を続けてきたものです。バックナンバーを見てみると、第1号から第5号までのタイトルは「おおばこ」でした。第6号からタイトルが「きゅうどうしゃ」に変わっています。クローバー作業所ができたからです。題字は、中津徳平理事長、求道舎のマークは元理事の曽根原徹氏の手になるものです。

（伊瀬谷秀史）

「きゅうどうしゃ」発行は、7月と1月に

機関紙「きゅうどうしゃ」の発行時期を変更いたします。年2回の発行は変わりませんが、7月・1月の発行となります。

編集者　社会福祉法人求道舎　〒039-2516　青森県上北郡七戸町字舘野 32-15　℡0176-62-3631
発行所　東北障害者団体定期刊行物協会　〒980-0874　宮城県仙台市青葉区角五郎 1-12-6　頒価 100 円